



に寒冷地でも必要が堅調(写真は札幌工場)

旭硝子のラコベル、プリウムを使用したワーキングスベイス

旭硝子のラコベル、プリウムを使用したワーキングスベイス

作務用テクノ

開発やイノベーション創出のための空間づくりに取り組み提供し、新しいアイデア

の取り扱う非UV添加剤との事業シナジー発揮を

甘糟化学

三國工場、神戸に移転

アルコール 西日本向け体制刷新

甘糟化学産業は、大阪府豊中市の生産拠点「三國工場」を移転する。豊中市の都市計画に基づく用地買収にともなうもので、すでに2019年春の工場閉鎖と、移転先である新工場「神戸工場」

(神戸市西区)の操業開始を決定している。新工場は神戸テクノ・ロジックパーク(神戸複合産業団地)に建設予定で、同年1月から操業を計画している。同社は化学品商社兼メ

ーカーとして、エタノール製剤の製造・販売を主力としている。また各種溶剤など、有機・無機薬品類のほか幅広い商材を取り扱っている。なかでもアルコール部門は、3つの製造拠点を軸に迅速

なデリバリー体制を強みとする。三國工場は千葉、銭函(北海道)と並ぶ重要拠点。1938年に設置され、18年には操業80年を迎える同社最古の工場

で、西日本向けの生産の要となっていた。甘糟化学産業では三國工場の神戸移転にともない、西日本向けの生産体制を全面的に刷新する。すでに用地も確保しており、工場新設に向けた計画立案に着手している。生産能力は従来と同程度の規模的としながら、設備は新規製品にも対応する。顧客対応や生産・出荷

の移行は、徐々に切り替えていくことでデリバリー。移転先の神戸複合産業団地は、地区内に神戸西

一面での安定性を確保する。そのため三國工場の閉鎖は、神戸工場が操業を開始してから3カ月ほどの期間を置く。また同計画に沿い、神戸工場の生産設備は三國工場から移設するのではなく、新規導入を基本とする。同社では今後、設備の選定を含めて新生産拠点としての詳細を話していく。

後は、西日本向け展開に向けたデリバリー能力強化も見込まれており、メーカー機能のテコ入れによる収益力強化も期待される。

サンクト

優秀な中国人新卒紹介

商社のサンクト(東京都江東区)は、中国の大連外語大学と提携し、日本企業に向けた中国人新卒採用のための人材紹介ビジネスに乗り出す。日本語を習得した優秀な同大学の新卒者および第2新卒を対象に日本企業で働きたい人を募集して紹介する。来年度の卒業生の就職に向けて作業を進めており、初年度は50〜60人の採用実績を目指す。

大連外語大と提携

引き続き同社は中国全土の大学と提携を推進、拡大する。大連外国大学は1964年に日本語専攻を設置した。同大学のなかでも長い歴史を持つ。中国の大学にある日本語学科のなかで最も人数が多く、1学年約380人と

日本以外では世界最大級の日本語教育の拠点となっている。日本語の翻訳採用したい企業は多いも

の、「方法が分からない」「優秀な人材を判断できない」「採用にかかる費用や人的・時間的負担が大きい」といった課題があった。こうしたなか、企業との採用目的、求める人材をサンクトが理解し一緒に解決する。サンクトは10月1日に職業紹介事業所の認可を受けたことから、25日から同社主催の就職フェアを大連外語大学で開く。中国の卒業は7月であることから、来年7月の卒業生を主な対象とし作業を進めている。日・英・中国語の3カ国語ができる事務系の優秀な22歳から20代半ばまでの若手を日本企業に紹介する。内定後、入社(日本入国)までのフォローやスキルアップトレーニング、ビザや入国に関する書類作成の支援、日本での住宅の手配といった、さまざまな支援体制を整えている。

初年度、50~60人採用めざす

なお同社は専用ホームページを立ち上げた。アドレスは <http://www.dfs-sg.jp>



同社は2015年4月にマレーシアで運送業務と倉庫業務に求められる航空輸入貨物を扱うジャカルタ近郊のチェンカレン事務所外観と使用するトラック

商社 物流

インドネシアでハラル認証取得

郵船ロジスティクスは16日、インドネシアの現地法人が8月にハラル認証を取得したと発表した。日系物流企業による国内での同認証の取得は初めて。今回認証取得した範囲は、ジャカルタ港および

空港発着の海上・航空輸出入における、同社が提供している一連のオペレーションが対象。例えば、貨物の引き取りおよび配送はハラル認証基準を満たすトラックのみを使用するなど、取り扱い方法のトレーニングを受けたスタッフが手順に沿ってオペレーションを行い、ハラル認証に沿った物流サービスを提供していく。